



会って、話して、楽しんで！ おしゃべり会のご案内

お菓子をつまみながら、友達同士で楽しいおしゃべりをする。短い時間だけど、そのときだけは、嫌なことも忘れて笑ったりできる。「おしゃべり会」という集まりが、毎月1回、第4月曜日の午後、都立汐入公園内のリバーパーク汐入町会防災センター（荒川区南千住8丁目）で開かれています。ひとりで参加しても、お友達を誘って参加してもOK。参加費は無料。毎回、南千住に住む60代から90代の人たちが30人ほど集まって、世間話をしたり、近況を語り合ったりしています。次回は8月26日（月）午後2時から。もう155回目を数えます。

会を主宰しているのは、南千住の「べるぼうと汐入東館」でふとん店を経営する岡本亜矢さん。会を始めたのは亜矢さんの母、故・岡本順子さんと、友人の故・小竹和子さん（初代会長）からです。それはもう10数年前に遡りますが、「年を重ねて体が自由に動かなくなってきたときでも、自由に話ができる場所が近所に欲しい



わよね」と始めた小さな集まりが、今も続いているわけです。

毎回、会が始まると、最初に15分ぐらい、社会福祉協議会の人や南千住警察の人が来て、参加者に熱中症予防やオレオレ詐欺への注意を呼びかけます。それから20分ほどは、椅子に座ったまま誰にでもできる「荒川ばん座位（ばんざい）体操」で体をほぐし、運動不足の解消です。それが終わるといよいよ自由なおしゃべりの時間。お茶とお菓子をいただきながら、世間話などに花を咲かせます。誕生月の人がいるときは、みんなでバスデイソングを歌ったりもします。

亜矢さんが会の手伝いを始めたのは今から8年前の2016年ごろからでした。病で入院していた母の順子さんから「会をよろしくね」と託されたのがきっかけです。コロナ禍のころは参加者が少なくなりましたが、今はまた増えつつあると言います。亜矢さんから7人が世話人となって、この会を維持しています。

「おしゃべり会」に集まる人は何を求めてやってくるのでしょうか。「私も不思議でした。皆さん、なぜ集まって来るのだろう」と亜矢さん自身も考えたことがあります。そして「そこに行けば誰かに会える、多くの人がそんな場所を求めているのだ」と思うようになりました。おしゃべりしに来るのは、一人暮らしの人も多い。「やはりみんな、誰かに会ってしゃべりたい、そんなつながりを求めてやってくるのだと思います。仲良しグループの人だけが連れ立ってやってくるのかというと、そうでもないのです。参加者は圧倒的に女性が多いのですが、きれいなおしゃれをしていらつしやる人もいますですよ。大切な外出の場だと思ってお下さっているのでしょうかね」。

「元気だった？」「あなたは？」。そんな言葉を掛け合うだけで、癒されることもある。テレビだけが友だちになってしまつたら、あまりに悲しい。「人はひとりきりでは生きていけないということを教えられました」と亜矢さんは言います。「自分たちがやってきたことですが、おしゃべり会に集まる人によって、自分たちが助けられているような気がするんです」。

真夏の暑い盛りには、宇治抹茶のかき氷が参加者に出されます。世間話をするにも、おいしいものをいただく「もぐもぐタイム」は大切だから。年末にはビンゴ大会が催されます。お正月には亜矢さんの琴の演奏が聴けます。

「ひとりでも、お友達同士でも。そして初めての方も、気軽に参加して顔見知りにおしゃべり会のドアはいつも開かれています。もし誰かとおしゃべりをしてみたくなつたら、ちよつとの勇気を出して会場をのぞいてみてはどうでしょうか」。

相談は、岡本亜矢さんへ電話
03 (3801) 4725 まで。

